

# 株主通信 | 冬 | 号 |

2017年9月期 決算のご報告  
(2016年10月1日～2017年9月30日)

本株主通信は2017年9月末時点での株主の皆様にお送りいたしますことをご了承ください。

株式会社 **日本マイクロニクス**  
証券コード：6871

## 株主・投資家の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

中期経営計画『Challenge17』の最終年度であった第47期（2017年9月期連結会計年度）の市場環境は、半導体デバイスへの需要拡大を背景に、概ね堅調に推移いたしました。こうしたなか当社グループでは、生産体制の更なる拡充など、中期経営計画の着実な進捗に経営資源を積極投入し、新たな成長ステップを踏む為の地盤づくりに注力いたしました。この結果、当期の連結業績は前年比で増収増益となり、収益基盤が一段と強化された成果の多い1年となっております。

当社グループでは今般、長期的視点に立った『MJC Future Vision』を策定し、自社が進むべき成長の道筋を内外に表明いたしました。本ビジョンのもと、当社独自の総合管理システムQDCCSS<sup>(\*)</sup>の更なる深化を図りつつ、先進的な技術開発を継続し、他の追随を許さない独自の価値を創出・発信していきます。

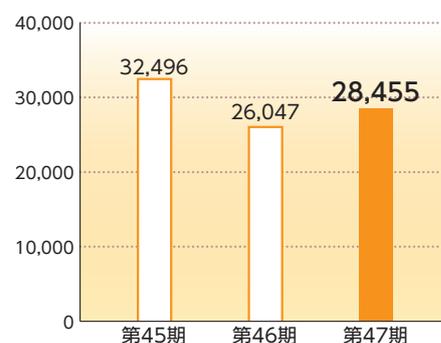
株主の皆様におかれましては、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

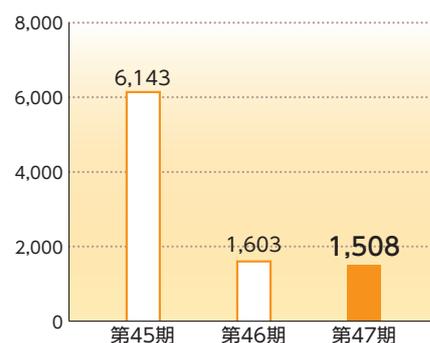
**長谷川 正義**

(\*)Quality, Delivery, Cost, Compliance, Service, Safetyの頭文字を取った略語であり、当社が常に改善及び改革に取り組む6つの活動テーマを示したものです。

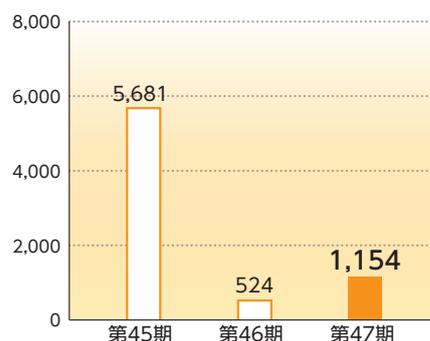
### 売上高(百万円)



### 営業利益(百万円)



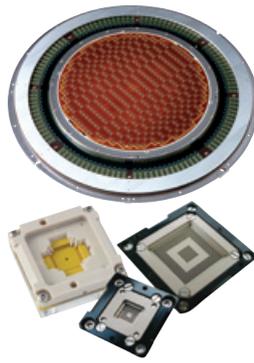
### 親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)



## プローブカード事業

### 事業内容

モバイル端末、パソコン、自動車、家電等、様々な用途に使用される半導体の生産工程で、ウェーハの電気特性検査に用いるプローブカードやパッケージ後の特性検査を行うテストソケット等を半導体メーカーに提供しています。

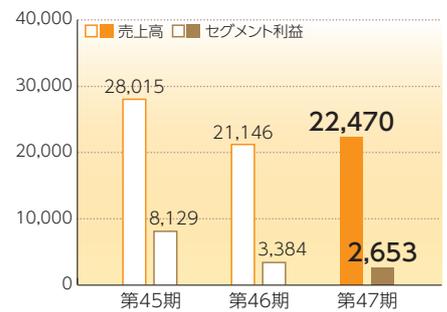


### 当期の概況

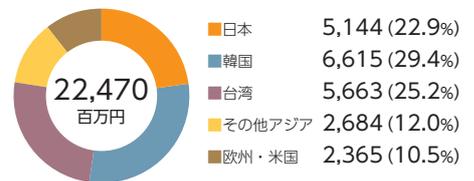
プローブカードは、ロジック向けが伸び悩みましたが、メモリ向けが下半期にモバイルデバイスやサーバ用途の新規品種の切り替えが進んだことで回復し、全体として前期比で増収となりました。一方、利益面におきましては、上半期にプロダクトミックスの変化、及び稼働率の低下等で営業利益率が下がり、下半期は需要増加による高稼働で堅調に推移したものの、通期としては前期比で減益となりました。

この結果、売上高は22,470百万円(前期比6.3%増)、セグメント利益は2,653百万円(前期比21.6%減)となりました。

### 売上高・セグメント利益 (百万円)



### 地域別売上高構成比 (百万円)



## TE事業

### 事業内容

テレビ、モバイル端末、パソコン等、様々なディスプレイに使われるLCD\*<sup>1</sup>パネルの電気特性や表示検査を行う装置の他、プローブカードに相当するプローブユニット等をFPD\*<sup>2</sup>メーカーに提供しています。また、半導体の生産工程向け専用テストや研究開発用途向けプローバ等を半導体メーカーに提供しています。



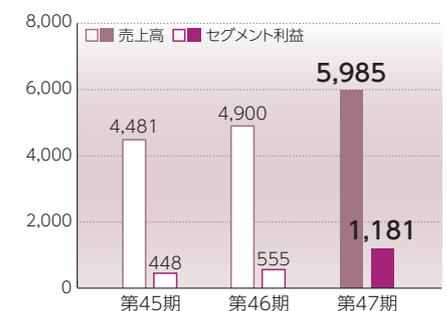
※1 LCD (liquid crystal display) 液晶ディスプレイ ※2 FPD (flat panel display) フラットパネルディスプレイ

### 当期の概況

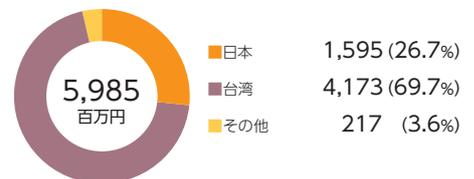
半導体検査装置関連は、LCD装置関連のプローブユニットが底堅く推移したことに加え、半導体テストの高需要に対して、安定的に生産・供給できたことで、前期比で増収となりました。利益面におきましても、半導体テストの高需要が寄与し、前期比で大幅な増益となりました。

この結果、売上高は5,985百万円(前期比22.1%増)、セグメント利益は1,181百万円(前期比112.8%増)となりました。

### 売上高・セグメント利益 (百万円)



### 地域別売上高構成比 (百万円)



## TOPICS 01 「SEMICON TAIWAN 2017」に出展いたしました。

2017年9月13日(水)～15日(金)に台北で開催された「SEMICON TAIWAN 2017」に、子会社の TAIWAN MJC CO., LTD. と共に、台湾市場におけるMJCグループの認知度向上を目的として出展いたしました。

台湾におけるプローブカード販売は、これまで販売代理店を通していましたが、今後は直接 TAIWAN MJC CO., LTD. が行う為、台湾市場での知名度向上が課題となっております。

MJCブースでは、プローブカードだけでなく、半導体試験装置(テスト)、ウェーハプローバ、テストソケット等を展示し、台湾の半導体テスト業界に向けてPRを行いました。

今後も引き続き、台湾市場における存在感を高めていきます。



# 長期展望に立った『MJC Future Vision』の

**Q** 第47期の取り組みと経営成績をどのように評価していますか。

**A** 第47期の事業環境は、メモリ向けプローブカードの需要が第3四半期から急回復したことに加え、ロジック向けの需要も拡大傾向を辿ったことから、総じて堅調に推移いたしました。当社はこうした旺盛な需要を取り込むとともに、半導体テストの拡販にも注力するなど、更なる成長への基盤固めに全社の総力を結集いたしました。一方、グローバル展開については、2016年12月のMJC ELECTRONICS ASIA PTE. LTD. 設立を始め、当社が主体性を持ってユーザーニーズに対応していく顧客密着型の営業体制を確立しております。

当期の連結業績は前年比で増収増益となりましたが、業績数値以上に、安定利益を継続的に創出できる体制を構築できた点を大きな成果として強調したいと思います。

**Q** 2017年9月期で中期経営計画『Challenge 17』が終了しました。計画の成果について教えてください。

**A** 『Challenge17』（以下、「本中計」）の主な成果は2つあります。第一に、TE事業において安定した収益モデルを構築できたことです。FPD向けから半導体向けへの転換が進み、4期連続で営業黒字を達成することができました。第二に需要の変動、とりわけプローブカード需要の急

激な拡大に対応する生産体制を確立できたことです。当社はここ数年、生産能力の拡充や生産整備の最適化を進めると同時に、不良品を出しにくい仕組みづくりに邁進してきました。こうした取り組みが奏功し、第47期第3四半期及び第4四半期に顕著であった需要の急拡大にも、柔軟かつ的確に対応することができました。社員のQDCCSSに対する認識が更に深まったことも、本中計の成果として付け加えたいと思います。

**Q** 御社は今般、『MJC Future Vision』を公表されました。本ビジョンの策定の狙いと骨子についてご説明ください。

**A** 当社はこれまで、3カ年ごとに策定する中期経営計画に沿って事業活動を行ってまいりました。しかし、当社が軸足を置く半導体業界はボラティリティ（変動性）が高く、計画時の市場環境と実際が大きく乖離することもあります。そこで当社では今回、長期的視点に立脚し、将来の当社の＜目指す姿＞を明確化した『MJC Future Vision』を策定し、公表することいたしました。

目指す姿としては＜QDCCSSを更に推し進めて品質と納期での競争力を高め、市場へ安心・安全を提供することで『より豊かな社会の発展に貢献する』を掲げております。プローブカード事業ではメモリ製品の市場シェアを堅持するとともに、ロジック製品の販売拡大に取り組み、TE事業では現行ビジネスの安定的な収益確保に努めていきま

# もと更なる成長を目指していきます。

す。また次代の収益源となる新事業の開拓については、本年10月に発足した新事業研究開発本部を中核に、二次電池だけでなく、多様な研究分野のシナジー創出と革新的な製品の創造に注力していきます。

Q

最後に株主の皆様  
メッセージをお願いします。

A

当社は1970年の創業から今日まで、卓越した電子計測技術を基盤に、数多くの先端製品を世界の産業界に提供し、経済・社会の発展に貢献してまいりました。またプローブカードでは市場を牽引するリーディングカンパニーとして不動の地位を確立し、最高水準の品質とブランド価値が世界から高く評価されております。BtoB企業であることから、一般の知名度は決して高く

ありませんが、当社の技術と製品は、様々なエレクトロニクス製品を通じて、生活者の日々の暮らしに安心と安全をお届けしています。当社は今後も、この変わることのない使命を忘れることなく、基幹製品の安定供給と新技術の創造に経営資源を投入していきます。

株主の皆様への利益還元につきましては、従前通り、安定配当の継続を通じてご期待に  
応えてまいりたいと考えております。  
同時に、戦略性ある投資計画を立案・実行することにより、持続的な利益成長を実現し、株主価値の最大化を図っていきます。株主の皆様には引き続きご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。



## 2018年9月期第2四半期業績予想 (2017年11月14日現在)

売上高 **16,000** 百万円

営業利益 **1,600** 百万円

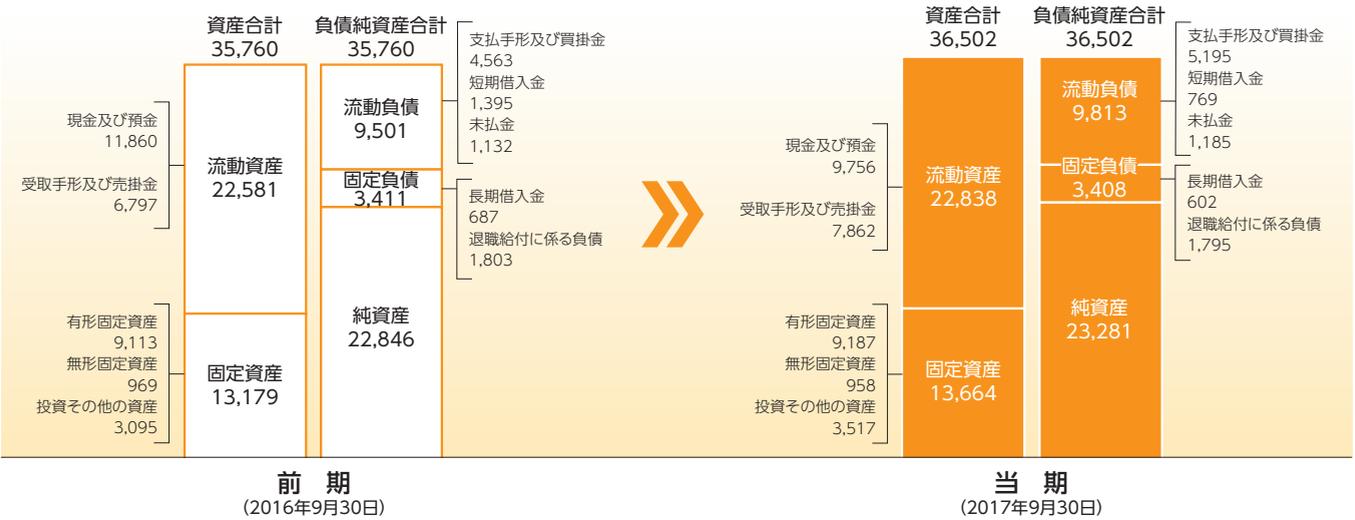
経常利益 **1,700** 百万円

親会社株主に  
帰属する  
四半期純利益 **1,300** 百万円

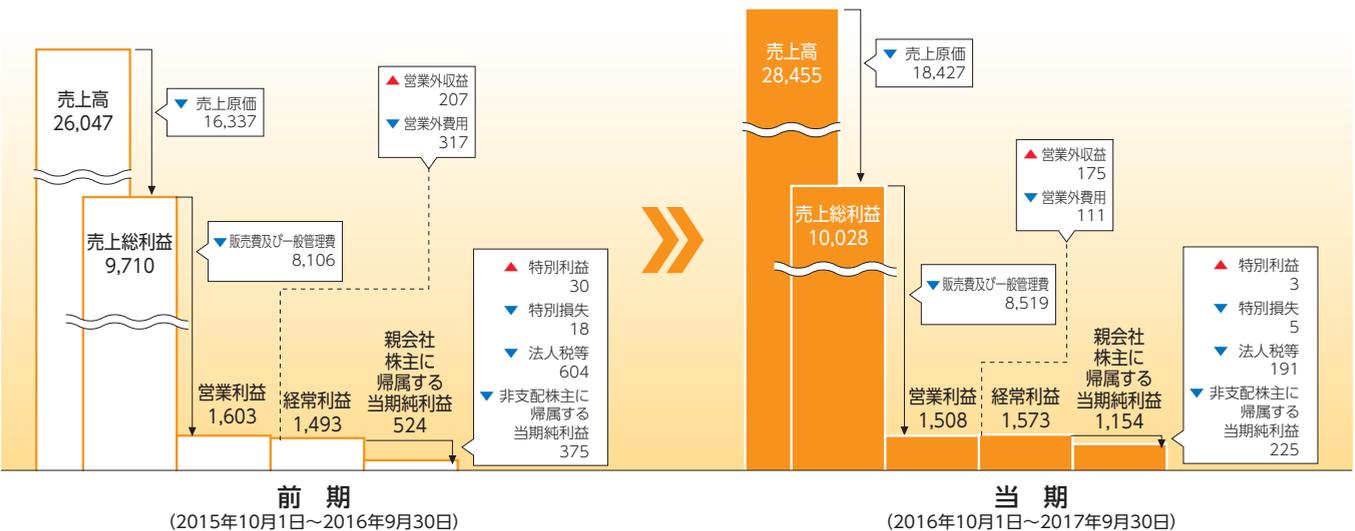
### (開示方法の変更について)

当社グループが属する半導体、FPD市場の市況変動は激しく、当社も通期業績を予測することが難しい為、今回より各四半期の決算発表時点で2四半期先の業績予想を開示する方法に変更いたしました。また、配当予想につきましては、通期業績予想と同時に開示する予定です。

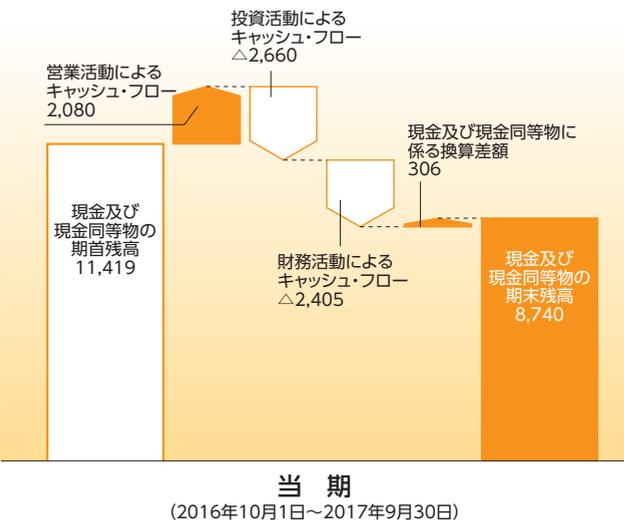
## 連結貸借対照表の概要 (百万円)



## 連結損益計算書の概要 (百万円)



## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (百万円)



## POINT

### 連結貸借対照表のポイント

- 1 流動資産の増加は、主として現金及び預金が減少したものの、受取手形及び売掛金、棚卸資産が増加したことによるものです。固定資産の増加は、投資有価証券の評価額の増加が主な要因です。その結果、資産合計は、前期末から742百万円増加し、36,502百万円となりました。
- 2 負債合計は、前期末から307百万円増加し、13,221百万円となりました。これは主として借入金が増加したものの、支払手形及び買掛金、前受金が増加したことによるものです。
- 3 純資産合計は、前期末から434百万円増加し、23,281百万円となりました。為替換算調整勘定が増加したことが主な要因です。

### 連結損益計算書のポイント

メモリ向けプローブカードの需要が下半期に高まったことに加え、半導体テストの引き合いも強まり、売上高は増加しました。利益面については、営業利益が低調だった上半期の影響により減少しました。一方、親会社株主に帰属する当期純利益は、税金費用が減少したことで増加しました。

### 連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

営業活動により2,080百万円の資金を得ましたが、製品の性能向上や生産合理化、新製品の量産化等を目的に積極的な投資を行った他、借入金の返済等にも資金を使用しました。この結果、当期末の現金及び現金同等物は、前期末より2,679百万円減少し、8,740百万円となりました。

